

2012年 社長年頭挨拶（弊社社内報掲載）

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

はじめに、東日本大震災により被災された皆様ならびに御家族、関係者の皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

いわゆる“リーマンショック”による世界同時不況から回復過程にあるかに見えた世界経済は、昨年に入り、新興国の成長鈍化、米国の財政不安、欧州通貨危機等により再び流動的な様相を呈しています。

加えて、わが国においては、東日本大震災、原発事故、それに伴う電力問題、歴史的な円高の長期化、タイ生産拠点の洪水など、産業構造の大幅な見直しを迫られる厳しい試練にたて続けに見舞われた一年でした。

そのような中、被災者の皆さんが示された冷静で秩序ある行動は、世界各国から多くの賞賛を浴びました。過酷な状況においても、他者への思いやり、周囲との「絆」を大切にしながら力強く生き抜いていく日本人の強さ、和の精神といったことを再認識すると共に、一人ひとりが向かいこむ困難を克服して、こうと決意を新たにしたい一年だったのではないのでしょうか。

おそらく2011年は、日本の経済史、産業史においても、特別な意味を持つ一年だったと思います。

こうした厳しい経済環境下にあるものの、当社のビジネスは、昨年後半からソフト面の受注、売上の回復傾向が見られるなど、短期的には明るい兆しが見えつつあります。ハード面においても、今秋の新日本製鐵、住友金属工業の経営統合において、当社のレゾナントルを發揮する新たな機会が訪れるものと期待しています。

一方、中長期的には、お客様企業は、システム企画力の担保が難しくなる中で、ますます厳しくなる国際競争を戦い抜くために、コスト競争力の徹底追求、海外市場を睨んだグローバル展開の推進等を加速せざるを得ない状況にあります。当社はこうしたお客様企業の戦いに身を投じ、全力で支えていかなばなりません。

そのためには、お客様企業から信頼を寄せていただいている“システム開発力”“愚直で誠実な姿勢”といった当社の原点ともいべき強みを大切にしつつも、ビジネス環境の変化に対する感度と柔軟な適応力を磨き、お客様企業が戦っていく上で真に必要なソリューション・サービスを創出し提供し続けていくことが求められます。

個々のお客様の業務に合わせてスクラッチ開発で対応していた旧来のシステム化は、ERPや各種パッケージ・コンポーネントを駆使したサービスインテグレーション、クラウドサービスの適用拡大、ビジネスアウトソーシングへと着実にシフトしており、今後急速に進んでいくものと思われれます。

社員の皆さんにおいては、世の中の変化、お客様のビジネスの変化、お客様の我々に対する期待の変化を捉える感性を研ぎ澄ますと同時に、お客様と共に自らも変化していくしなやかさを一層磨いていただきたい。

その上で、これまで育んできたSAP・GRANDIT・Paples等の主要ソリューションに磨きをかけつつも、その他様々なパッケージ・コンポーネント・サービス等の知見を積極的に吸収していくことで、お客様企業からの要求に柔軟に対応できる力を培って欲しいと思います。

ITをもって社会に貢献するSインダーとして、お客様から頼りとされる良きITパートナーとして、当社がこれからも存在感を示していく上で、我々は今まさに重要な潮目に対峙していることを忘れず、自ら変化していくことに果敢にチャレンジしていこうではありませんか。

最後に

来年4月、当社は創立25周年を迎えます。この節目に向かって、社員の皆さんの心をつなげてより一層「絆」を深め、健康に留意しつつ、明るく元気に前に進んで参りましょう。

皆さんと御家族にとって、今年が平和で幸福な一年となることを心からお祈りいたします。

以上